

2007年 内定の達人塾 参加レポート

菅原ゼミのポリシーの一つは、「人よりも一歩早く」です。3年生が就職関連のセミナーに出席するのは当たり前。その一歩先を行くために、2年生が毎年、「内定の達人塾」に出席し、そこで考えたことをレポートにまとめています。

「2年生から考える就職活動」

2年 鈴木 雄太

1 1月29日の内定の達人塾に参加し第一部に中村信二さん、第二部に山近義幸さんの講演を聴いた。まず、初めに第一部で講演していただいた中村信二さんの講演についてである。中村さんが講演会に来たのは就職活動のテクニックを教えにきたのではなく、自信がない人のために来たといえるのであろう。中村さんは就職活動を行うことにおける大切なことを3つ示した。

1つ目は、失敗から学ぶ人生であること。人生において勝つことよりも負けることのほうが多いのである。失敗したら嫌だと思える人が失敗する。しかし、最初からうまくいかないことを知ることによって、それを楽しむことができる。逆に失敗を恐れる人は何も挑戦しないほうがいい。挑戦しなければ失敗することはないからである。

2つ目は、世の中のキーワードは「成功」。成功なんて捉え方は人それぞれであり、テレビや新聞で報道されることは参考にならない。また、重要となるのが素直な心を持つことである。素直な心を持つことによって自分の心をコントロールできるようになるからである。誰と会っても同じに接することによって素直な心を持つことができるようになる。人によって接する態度を変えていては自分の本当の姿を表現することができなくなるからだ。例として挙げると、後輩に対して威張っている人が先輩の前だと先輩を煽るような人、というのでは自分の素直な心を持つことができないのである。素直な気持ちを持たなくなるとマイナスな点として損得でしか考えられなくなる。

3つ目に、迷った時の考え方。人生において迷う機会がおとずれる。その機会において重要となるのが、損得で考えるのではなく善悪で考えることである。善悪で考えることが重要と気づくのはまだ気づかなくてもよいが、就職活動が気づききっかけとなるのである。

次に第二部で講演していただいた山近義幸さんの講演について。山近さんは、企業がほしいとされる人材について具体的に講演を行った。この点が中村さんの講演と違うところだ。上記と同様に企業がほしがらる人材について3つにまとめて示す。

まず、1つ目。昔の企業では人間性のいい人材が必要とされていた。しかし、4、5年前からは人間力のいい人材が必要とされている。人間力とは、「自分をさらけ出す＝自分に正直になる＝本音力」、「コミュニケーション力」、「継続力」の3つである。この3つを大学生活で力をつけることが必要となる。大学生活だけでは他の学生も行っているので差別化ができないので、インターンシップや就職イベントを通して社会人とより多く触れ合う機会を増やすことによって人間力をステップアップすることができるようになる。

2つ目は、就職する企業に対して選択の善悪の要素のまとめである。就職活動をするにおいて多くの学生は「給料・休日・勤務時間」の3つを選択の基準とする。しかしこの3つは悪の要素であり、この3つの要素で選択した企業に就職した学生はサラリーマンとなる。このような基準で選んだために実際に仕事をすると仕事に対する魅力が感じられず、仕事が苦痛に感じられ離職や成績不振とマイナスになるのである。

しかし、就職活動する時に上記の悪の3要素で企業を選ばずに、「ミッション・ビジョン・バリュー」の善い3要素で選ぶことによってサラリーマンではなくビジネスマンになるの

である。つまり、生きがいややりがいを感じることを仕事にしているので成果がでて、自分にとっても、企業にとってもプラスになるのである。

3つ目として、これから伸びてくる業界を「か・き・く・け・こ」の業界として示したものである。「か・き・く・け・こ」の業界、つまり「環境・教育・食べ物・健康・高齢者」の頭文字をとった業界のことである。いずれの業界も現在課題を抱えている業界であり、また将来を見通しても課題が多く残ると思われる業界だ。このように課題が多いと就職活動を行っている学生は避ける傾向がある。しかし、しっかりと業界研究や企業研究を行うことによって「か・き・く・け・こ」の業界がいかにかこれから成長するか見えてくるのである。

今回の講演会にでて感じたことは、就職活動は自分を成長させることができる機会であり、苦しいと捉えずに楽しいと思いつながることが大切であるということ。また、就職活動を今から少しずつでも初めておいたほうがいいのではないかと気持ちになった。最後に講演会の内容とは関係ないが、自分が予想していたよりも参加者の人数が少なかった。必ずしもこの講演が就職活動につながるわけでない。しかし、早い段階から就職活動を行うことが大事であるから、就職活動に対する意識が足りない人が多いのかと感じた。

「人間力の重要性」

2年 武田 雄介

11月29日に株式会社エムアンドジーの代表取締役兼 CEO の中村信二氏と、株式会社ザメディアジョンの代表取締役兼 CEO の山近義幸氏の二氏が、それぞれ「100万ドルの笑顔塾」、「内定の達人塾」と題した講演を行った。

最初に、中村信二氏は講演の中で就職のためのテクニックやスキルを伝授するのではなく、人間としてどうあるべきか、またどういう人間を社会が求めているのかということの説明すると前置きした。

私は講演の中で重要なことは、失敗を恐れない、素直になる、人のために生きる、の3つだと思った。人は誰でも失敗するもので最初からうまくいく人間などいない。人間は失敗から学ぶものである。失敗する人と挑戦する人の違いは失敗をどう捉えるかの違いである。私が最も印象に残った言葉は、失敗は失敗したくないと思っている人にしか訪れないというものだった。つまり、失敗したくない人は失敗を恐れてなかなか動こうとしない、それでいざ失敗したときにそれがトラウマになってさらに行動しなくなる、という悪循環に陥ってしまうのである。

対照的に、挑戦する人は、失敗は必ず起こるという前提の基に行動している。さらに、失敗を失敗と受け止めるのではなく、ただうまくいっていないだけというようにポジティブに考えられる。だから、新しいことにもっと挑戦していけるのである。

次に、素直になることの重要性である。なぜ素直にならなければいけないのか。それは、素直になることで、感謝の気持ちが生まれてくるからだ。我々は周りの人間、親や兄弟、友人などに生かされているのだから、感謝することが大事である。感謝の気持ちを持って人と接すれば、それは何らかの形で自分に返ってきて、人間関係をより豊かなものにする。人が素直になるためには感謝、感激、感動、感取、これらを持つことが必要といえる。

そして、人のために生きることについてである。一人称の人生ではなく二人称の人生を歩むことが重要だということの中村氏は語っていた。自分がというのではなく、人のために自分が何をしてあげられるのかということを考えるのである。そうすれば、人はついてくるようになる。そのために自分が何のために誰のために生きているのかをしっかりと意識することが重要である。最後に、中村氏は一番重要なのは、逃げないことだと語っていた。

続いて第二部は山近義幸氏が講演を行った。山近氏は中村氏とは違いレジュメを利用した講演スタイルであった。その中で人間力強化の10カ条を掲げ、人間力が人生においていかに重要であるか、そしてそれを身につけるためにはどうすれば良いのかを語った。

具体的に人間力とは、自分をさらけ出せること、コミュニケーションする力があること、継続する力があることの3つである。まず人間力強化のために重要なことは、多くの人、特に社会人に会おうということである。山近氏の言葉によれば、人は誰かに会い、怒られ、叱られ、泣かされて、初めて強くなれる。だから、たくさんの人にあって自分を磨いていない人は、就職の面接において、人間性がすぐに分かるということ話を話していた。そして、次に歴史を知ることである。さらに言えば、生きた歴史である。歴史は繰り返していくものだから、これは経営者なら誰でも知っておかなければならない。例えば、「回天」、「知覧」、「五稜郭」、「松下村塾」、「イムジン河」の言葉の意味を知ることである。経営者はすべてこれらの言葉の意味を知っているらしい。また、歴史を知り先人たちに感謝せよとも言っていた。

質問力をつけることも重要である。ただ人の話を記聞くのではなく、質問することによって、聞きたい事を聞くこと、大切な事を聞くこと。時には、相手が言いにくいことまで聞くこと。これが質問力である。質問をすると相手は考える。そしてそれが相手を輝かすことにつながる。これは利他主義といえるものである。相手を輝かすことのできる質問力を持った人間のほうが良いと山近氏は言っていた。さらに感性を磨くことである。これは映画を観たり読書したりすることで磨かれる。感性とは表情であり、リアクション・リターン・レスポンスが自然にできることが人間力において重要なことである。最後にすべての出来事と出会いに感謝することが大切であると言って講演を締めくくった。

中村信二氏は講演の途中何度か声を大きく張り上げて話しに強弱があった。またこの人からは熱意も伝わってきた。山近氏からも熱意が感じられたが最初のインパクトは中村氏のほうがあったと思う。

私は今回の講演を聞いて両者とも本質的には同じ事を言っていると思った。たとえば、自分の事を主張するのではなく、常に相手の事を考えられる人間のほうが良い人間であるということ、そしてそれが就職の面接においても重要であるということである。私がこの日学んだことは、就職活動ひいては人生において重要なことは技術やスキルではなく人間的にどれだけ優れているかということだった。人間力は社会で生きていく上で土台の部分であるから、ここを鍛えることはすごく意義のあることだと思う。自分が就職活動をするときにはぜひこの事を念頭に置いて取り組んでいきたい。

株式会社エムアンドジー「中村信仁」のビジネスのあり方

2年 高橋 強二

人は一度しかない人生を100%自らが満足するように生きることにはできないのである。むしろそれは不可能だ。例としてあげていたのはイチローの打率に関することだった。あれほど素晴らしい選手であるのに打率は10回打席に入ってたった3回ヒットを打てる程度なのだと言っていた。それを聞いて、人間はすべてがうまくいくわけがないということが率直に伝わった。しかしうまくいかないことはあっても、逆に失敗はしないようにすることが大事である。「失敗」とは自分がそうなる、つまり、失敗すると考えてしまう人だけに起こるのだ。そこで、この「失敗」に打ち勝つ方法とは、うまくいかないことをいかに「楽しむ」かが重要なのである。「楽しむ」とはどのように「克服する」のかという意味である。

彼はこれから大学を卒業し、就職していく僕らに熱くこう言った。「理想の会社など絶対にない。自分たちがそれをつくる、という気持ちが必要。」と。もしなんらかの企業に就職したとして自分に置き換えて考えると、自分で理想の会社をつくることなど考えもしないだろう。

次に、社会に出てから成功するための一つとして、誰と会っても同じ自分であることが大事であると述べた。自分をコントロールできるパワーは「素直さ」しかないのである。また彼は、「感謝」、「感激」、「感動」、「感取」、「感性」という「五感」を持つ人こそ素直であるといえる、と話した。ただ自分の意見を貫き通すことだけが素直ではないというのである。

僕が一番興味を持ったのは次の話である。「成功は自分の感じ方しだいである」という話だ。「成功=お金持ち」とイメージしていた僕だが、それは間違っていた。そう気づいたのである。将来社会で働くようになって考えるべきことは、何のために、誰のためにこの仕事をしているのかを考えることが大切である。難しくいうと二人称の人生か、それとも一人称の人生か、ということである。人は「産まれる」、「生きる」、「死ぬ」という道歩いていた、「生きる」ことは「死」にむかって歩いているのと同じことなのだ。その「生きる」段階で一生懸命、精一杯努力することが大事なのだ。また、出会いに偶然はなく、必然しかない。だから常にチャレンジ精神持ちながら生きるべきである。

最後に、中村社長の話を聞いて感じたことは、熱く生きることが大事であるということである。失敗して落ち込む暇などない、失敗したと感じずに、うまくいかないことを一生懸命克服することに人生の楽しみを持たせる生き方をするべきだと思うようになりました。

2年 荃田 春佳

私は今回の講演を聞いて、就職の講演というより人間はどう生きべきか中村信二氏は訴えていると思いました。最初に失敗とは自分が決めることで、自分が失敗と認めない限り失敗というものはなく、失敗ということはありませんとおっしゃっていました。

うまくいかないことをすべて失敗だと落ち込むばかりではなく、それも勉強だとくじけない気持ちが大切で、失敗を繰り返して、成功へ繋がっていくのだということを学びました。確かに、最初からうまくいく人などほんの一握りで、何度も繰り返し挑戦して成功する人の方が多い、挑戦する数が多いほうが成功する確率は上がるのだから当たり前です。自分は失敗などしていない、ただ少しうまくいかなかっただけだ、という開き直りが大切だとわかりました。

次に、成功に振り回されない、ということをおっしゃっていました。なぜ人を成功者と失敗者に分けることができるのか、成功の基準は人によって違うのだから世間がいう成功という言葉に振り回されないことが重要であるということです。例えば、テレビを見ないということです。テレビを見ると「成功者」という言葉が定義付けられて、それに振り回されてしまうからだそうです。確かにテレビを見ると実態のないものばかりで、現実とはかけ離れたものも多く、それに憧れても自分の中での成功を見失ってしまう可能性があると思いました。例えば中村氏が言っていたのはキャバクラの情報誌で、キャバクラの情報誌の7割は存在しない店であると、なぜそんなことをするのかというところの需要があるか調べるためだそうです。世の中にはあまりに多くの情報が多すぎて、それに私達は左右されすぎている傾向にあるのは確かです。成功の定義も同じように自分が成功だと思えば幸せだと思えばよいはずなのに、テレビでいう成功者と自分を比べてはいつまでも成功者になれないと思いました。

最後に彼が言っていたのは、一人称ではなく二人称の人生を送れということです。「私」だけじゃなく「あなた」のことを考えられる人生を送ることが大切だと。どんなに自分だけが利益を手にしても、従業員や取引相手など、相手に対しての利益を考えられる人間に

ならないと人は成功できません。そんな人間が経営してもその会社は潰れてしまうでしょう。そういった意味でも判断は勝ち負けではなく善悪ですること大切なのだと思います。また、企業に入るため、経営するためにそういった考えが必要なわけではなく、人として良い人生を送るために必要な考え方を中村信二さんは講演していたと感じました。